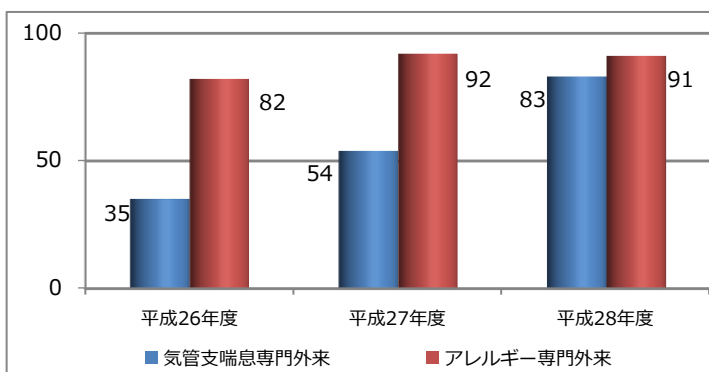


アレルギーチーム

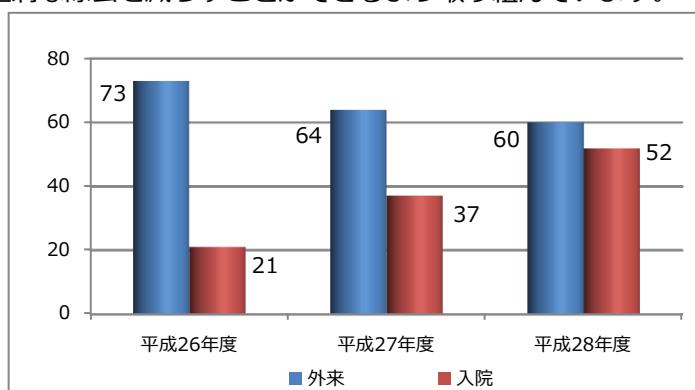
【活動目的】

平成 26 年度から「気管支喘息専門外来」と「アレルギー専門外来」を開始しています。

- 「気管支喘息専門外来」
 - ✓ 一つの診察室でアレルギー専門医の診察、薬剤師の吸入指導、看護師の生活指導を行なっています。各職種が同席して診察や指導を実施し、患者さん自身の思いを共有することで、アドヒアランス向上へ繋がるよう取り組んでいます。
 - ✓ 気管支喘息専門外来の受診患者は、平成 26 年度は 35 名、平成 27 年度は 54 名、平成 28 年度は 91 名となっています。
- 「アレルギー専門外来」
 - ✓ 気管支喘息以外のアレルギー疾患の患者を対象としています。現状では、食物アレルギーが多く、他に金属アレルギーやハチアレルギー患者さんなどが受診されています。アレルギー専門外来では、まず看護師とアレルギー専門医が症状やそれを誘発する原因について、専門知識を持って詳細な問診を行います。その結果からアレルギー症状を誘発する原因を推定し、血液検査や皮膚検査等を行い診断していきます。アレルギー症状の原因が診断できた患者さんには、小児アレルギーエドゥケーターが不適切な除去、過剰な除去にならないように、また日々の生活の質を下げないように考慮した生活指導を行っています。
 - ✓ アレルギー専門外来の受診患者は、平成 26 年度は 82 名、平成 27 年度は 92 名、平成 28 年度は 91 名となっています。



- 食物経口負荷試験（小児科）
 - ✓ 外来と入院で行っています。
 - ✓ 食物アレルギー患者さんは、原因食物除去の程度、誘発される症状などは様々で、さらに、保護者の不安、子供本人の不安に配慮することが必要です。そのため、当院ではそれぞれの患者にあった食物経口負荷試験ができるように、外来診療と入院診療という二つの方法を取り入れています。食物経口負荷試験で閾値が診断できた症例については、家庭で緩療法での経口免疫療法をすすめています。成長する子供たちのために、必要最小限の除去を基本とし、心配だから、食べたことがないからという過剰な除去を減らすことができるよう取り組んでいます。
 - ✓ 食物経口負荷試験は、平成 26 年度外来で 73 名、入院で 21 名、平成 27 年度外来で 64 名、入院で 37 名、平成 28 年度外来で 60 名、入院で 52 名となっています。



【構成メンバー】

アレルギー学会専門医、薬剤師、栄養士、小児アレルギーエドゥケーター資格を持つ看護師、医療ソーシャルワーカーなど多職種が連携して各々の専門分野でサポートすべく体制を整えています。